

## 凸凹（でこぼこ）

先週、ランシングでは記録的な洪水に見舞われました。2月21日には市内に非常事態宣言が発令され、川沿いの一部地域の住民に一時避難が勧告されるほどで、ランシング地域を流れるグランド川やレッドシダー川沿いの多くの道路が冠水のため、数日に亘って封鎖されました。川沿いでは、住宅の地下室が浸水したり、駐車場に停めていた車が動けなくなったり、ニュースによると2月23日には、ランシングでのグランド川の水位が1985年の記録（14.12フィート）を超える14.6フィートに達したようで、約30年ぶり規模の洪水だったようです（ワースト1は1975年の15.43フィートで約800世帯が避難）。

洪水の前週は-10℃前後、積雪約10cmで始まったのですが、洪水をもたらした大雨が降った2月20日の最高気温は16℃。「三寒四温」の季節とは言いますが、ミシガンでの寒暖の差はとても激しく感じます。

そんな季節に厄介なのが「Pothole」と呼ばれる道路の穴です。アスファルト舗装のあちこちに穴ができ、場所によっては未舗装路さながらになることもあります。これは、舗装面に染み込んだ雨水が、温度の変化により凍ったり溶けたりを繰り返すことで、舗装が割れたり剥離するために生じるものですが、最初は小さな穴でも、車が通ったりすることで、だんだんと広がっていってしまいます。タイヤを乗せてしまうと相当な衝撃で、パンクにつながったり、場合によっては破片が飛んで他車に当たったりするなど、事故が起こりかねません。自治体も穴を埋める応急処置に忙しく、あちこちで作業をされている光景を見ますが、全ての道路を修復するのはなかなか難しいようです。



昨冬はとても穏やかで、12月を除けば雪の少ない冬でした。しかし、今冬は大雪が降っては溶けて、という凸凹した天候を既に3回以上繰り返しており、道路へのダメージは例年以上に大きいようです。友人は「今年の道路は本当にひどい」と言っていましたし、デトロイト方面の交通量が極めて多い高速道路でも、あまりに状態が悪いため緊急補修工事が断行されました。

道路管理は自治体の責任なので、Potholeが原因で車にダメージを受けた場合、どのように補償請求するか、そんなコツに関する記事も見かけましたが、何よりもスピードを控えめに適切な車間距離を保つことが大切ですね。